

令和7年度 佐々木喜善賞受賞者

佐々木喜善賞

1 佐々木喜善賞（1点）

豊富な種類の応募作品の中から選考を行い、特に優れた作品を佐々木喜善賞として表彰する。

◇【受賞作品】 文芸「不思議な世界の昔や昔」

【受賞者】 佐藤 栄喜

【講 評】

佐々木喜善全集の中から抽出した23作品について解説と感想を綴っている、喜善への感謝と愛に溢れるエッセイ。単なる感想文を超えた読み解き遊びの要素もあり力作。本章に入ると句読点の無いヒトマス空きの文体となるが、境目の曖昧さが不思議な印象を与えている。この作品が、後に続く人たちの励みとなることを願う。

2 佐々木喜善賞奨励賞（3点）

応募作品の中で最後まで選考に残り優れた作品に対し、特別に奨励賞を設け表彰する。

◇【受賞作品】 論文「故郷・遠野物語に想いを寄せて」

【受賞者】 古屋敷 徳巳

【講 評】

遠野市土淵出身の論者が退職を機に学び始めた『遠野物語』のフィールドワークとしてまとめられた本論文は、幼少期の思い出や母、祖母からの念仏やイタコなどの伝承を体験に基づきながら論じられていて、遠野の資料としても大変貴重である。遠野市街地図、土淵、山口集落の自作地図も労作で、今後の活用が期待できる。

遠野出身者による自己発見の試み、また現在の遠野に消えつつある伝承や風景を残すヒントを提示している点を評価したが、論文としての体裁は改善の余地がある。

◇【受賞作品】 論文「遠野物語考：事始め ― 私たちに「矩」を示す遠野物語」

【受賞者】 平山 雄己

【講 評】

本論文は『遠野物語』読解のキーワードとして「境界」を見つけ、全119話のなかから場所的、時間的、「モノ」と精神の境界をすべて洗い出している。『遠野物語』の文章ひとつひとつに向き合った丁寧な論として評価した。

境界を越えられない一線を「矩」と言い、現代の「矩を示す書」として『遠野物語』を

提案したいとする動機は多くの人の共感を得るであろう。欲を言えば、その「矩」概念の一般化が、現代社会の諸問題解決の糸口になるという具体例の提示が欲しかったところで、今後に期待したい。

◇【受賞作品】映像音楽「また来てね また会うべし」

【受賞者】及川 真紀子

【講 評】

作詞・作曲、歌唱をご自身で手がけた唄に、写真を重ねた映像作品。子守歌のような旋律に深い情緒が感じられ、遠野ことばの音感に引き込まれる。恵比寿様が家々を廻る習俗に待ち人を重ね合わせた歌詞も奥行きがある。映像部分については写真の選定や編集に課題が残るものの、遠野で育まれた才能に応募いただいたことが嬉しく、継続的な創作と次回以降のさらなる挑戦を期待したい。

声の背景に映るもの、感じるものは、この場所で生まれた喜びとともに、懐かしさや寂しさも織り交ぜ、歌を聴く人に深い感動を与えます。神も自然も人も、この光に包まれ、守られ、何があってもここで生き続けると伝えているかのようです。